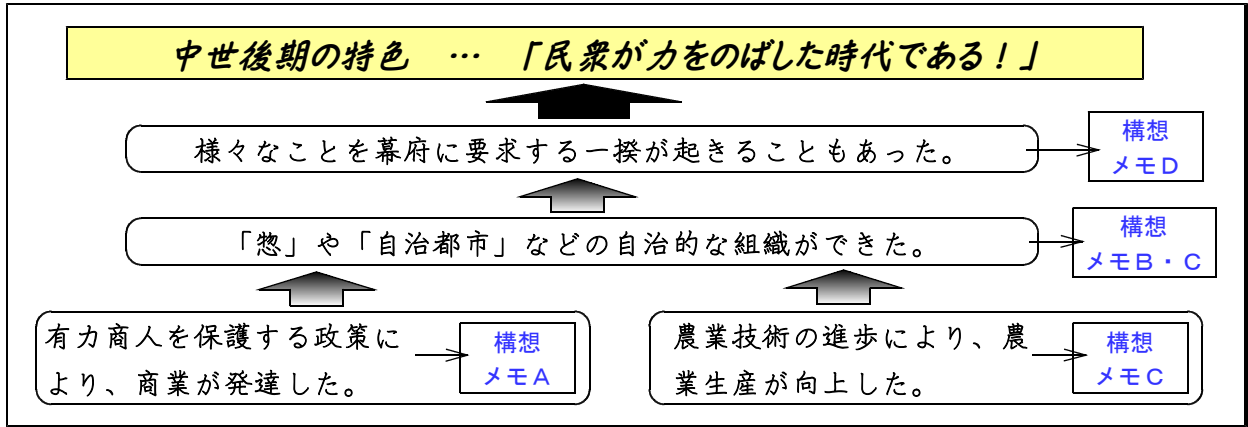


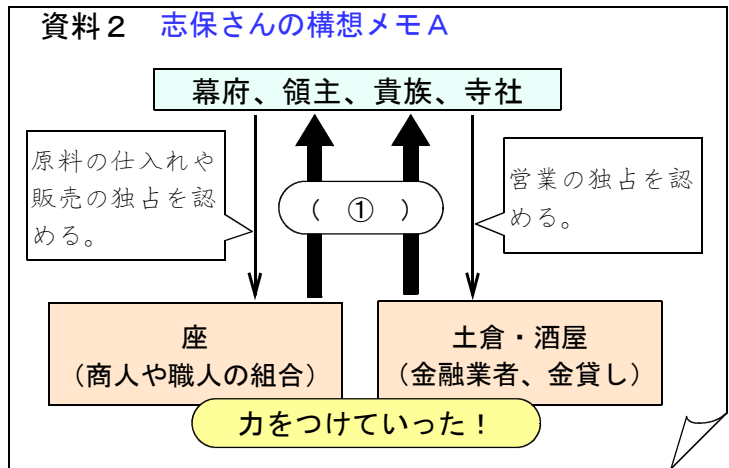
中世後期（民衆の生活の変化）	（ ）組	氏
	（ ）番	名

志保さんたちのクラスでは、中世後期（室町時代）の学習を終えた後、時代の特色をテーマごとにまとめることになり、志保さんは「民衆」の視点からレポートを作成しようと考え、様々な資料を集めました。次の資料1は、集めた資料をもとに志保さんが作成したレポートの下書きです。資料1に関する後の各問いに答えなさい。

資料1 志保さんが作成したレポートの下書き



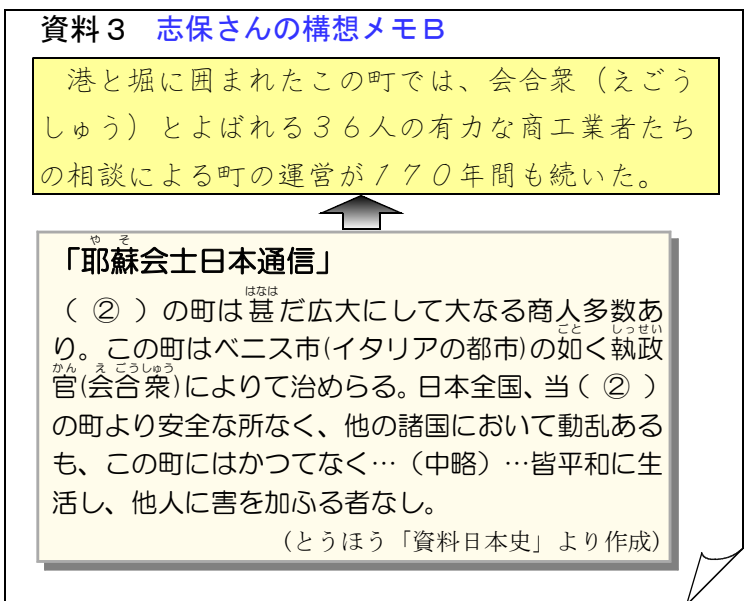
(1) 右の資料2中の「幕府、領主、貴族、寺社」は、座や土倉・酒屋に独占を認める代わりに、どのような見返りを受けていたのか。(①) に適する文を書きなさい。



(2) 下の想像図も参考にしながら、右の資料3の(②) に適する自治都市の名を、次から一つ選んで書きなさい。

安土	博多	都市名
堺	大阪	

図：(②) の都市の様子



(3) 鎌倉時代に広まった二毛作にもうさくに加え、室町時代になると、近畿地方では資料4中の下線部にある「三毛作さんもうさく」も行われていた。

「三毛作」とはどのような農業か。資料4中にある朝鮮使節の日記「老松堂日本行録」の記述から読み取って説明しなさい。

資料4 志保さんの構想メモC

有力農民を中心とする「惣(村)」という自治組織が成立していった。

次の技術などにより農業生産が向上した！

- 肥料の工夫
- 灌漑(かんがい)の工夫
- 近畿地方での三毛作

「老松堂日本行録」※朝鮮使節、宋希環の日記

日本の農家は、…(中略)…初夏に麦を刈りて稲の種もみを種まき、初秋に稲を刈りてそばを種まき、初冬にそばを刈りて麦を種まく。一つの沓(田)に一年に三たび種まく。乃ち川の流れをせき止めて灌漑すれば水田となり、川のせきをきって田の水をなくせば則ち乾田(畑)となる。

(とうほう「資料日本史」より作成)

資料5 志保さんの構想メモD

民衆の力が強まったこの時代では、農民や武士たちが団結して一揆を起すことも少なくなかった。

1428年の「正長の土一揆しょうちよう つちいっ き」や1441年の「嘉吉の徳政一揆かきつ とくせい」などは、一般民衆が幕府に対して「徳政(令)」を求めるダイナミックなものもあり、嘉吉の徳政一揆のように、幕府に徳政令を出させるのに成功したものもあった。

(4) 資料5のように、この当時の一揆では、民衆が幕府に対して「徳政(徳政令)を求める」ものも多かった。「徳政(徳政令)を求める」とは、具体的にはどのようなことを要求していたのか、下の資料6・7の下線部を参考にして、説明しなさい。

資料6 正長の土一揆

—「柳生の徳政碑文」—

正長元年より以前は、神戸四か郷に負債ふさいあるべからず。

(とうほう「資料日本史」より作成)

資料7 嘉吉の徳政一揆

—「建内記」—

嘉吉元年、京都周辺の土民蜂起す。土一揆と号し御徳政と称し、借物を破り、わずかな銭を払って質入れしている品物を強引に取り返す。

(とうほう「資料日本史」より作成)